

工学部ポリシー

工学部の目的

■日本工業大学学則 第1条の2■

工学部は、本大学の建学の精神及び理念に則って工学の理論と応用を教授研究するとともに、高度の教養と豊かな創造力のある人材を育成し、もって社会の発展に寄与することを目的とする。

■日本工業大学の教育目標■

1. 工学理論を積極的に現実社会に活用しうる創造的技術能力を持った人材を育成します。
2. 科学技術を愛し、その実体験豊富な人材に対し、その経験を生かした技術教育を行い、高度な技術能力を持った人材を育成します。
3. 広く世界の人々と交流し相互理解を深め、工学技術を通じて地球共生社会に貢献しうる人材を育成します。
4. 産業社会と工学教育の連携を密にし、広い実務的能力を持った実践的な人材を育成します。
5. 豊かな工学知識と広い教養を修め、真理を愛し健全な思想を持つ建設的な社会人を育成します。

工学部のアドミッションポリシー

日本工業大学は、工学への探求心の高さと、専門を学ぶに十分な能力を評価基準として、入学者を受け入れます。また、志願者の入学前学修履歴の多様化にあわせて、以下に示す各種入試方式を採用し、一人ひとりの優れた点を評価します。

1. 一般入試：筆記試験（数学・理科・外国語のうち2教科を選択）の成績および調査書により選考。
2. 専門高校入試：課題研究などの成果と学業成績および面接（A工業科）、学業成績、特長・特技および自己表現力（S工業科・B工業科）により選考。
3. 一般推薦入試：学業成績および面接（指定校）、学業成績、特長・特技および工学への関心度（公募制）により選考。
4. AO入試：面談、課題作品・レポートの内容および調査書（AOエントリー）、AOコーディネータによる面接と書類審査（AOコーディネータ）により選考。
5. センター利用入試：国語（機械工学科・電気電子工学科を除く）・数学・理科・外国語の4教科16科目から、2教科2科目以上を選択し、高得点の2科目（1教科につき1科目）の合計点と調査書により選考。
6. その他の入試：特別奨学生入試、社会人入試、国際バカロレア入試、帰国子女入試、外国人留学生入試。

工学部のカリキュラムポリシー

「実工学教育」の理念のもと、教育目標を達成するため、工学部のカリキュラムは、以下の方針に沿って編成し、実施します。

1. カリキュラムは、教養科目、専門科目から構成されます。
2. 初年次においては、入学者の学修履歴にあわせ、「工学集中コース（普通高校出身者向け）」・「工学発展コース（専門高校出身者向け）」の2種のカリキュラム・コースを用意し、個性の伸長を図ります。
3. 実験・実習・製図などの体験学習と、それに必要な基礎や理論を、低年次から平行して学ぶ「デュアルシステム」を採用します。
4. 本学独自に開発した「融合科目」により、数学・物理・英語と専門を関連づけて学びます。
5. 「工房科目」（平成17年度・文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」採択）により、ものづくりを、企画・設計から製作・施工まで一貫して学びます。
6. 新入生は、少人数クラスの「フレッシュマンゼミ」により、一人ひとりを大切にできる教育が受けられます。
7. 4年次には全員が「卒業研究（卒業計画）」に取り組み、課題発見能力・問題解決能力が育まれます。
8. キャリア教育により、職業意識を醸成し、就職力を高めます。
9. 教養科目に環境系科目を多く配置し、21世紀の地球環境に配慮できる技術者を育てます。

工学部のディプロマポリシー

プロジェクトリーダーとして生産現場を牽引する技術者、アジアをはじめ世界で活躍できる技術者、21世紀の地球環境を工学の視点から見つめることができる技術者を育成します。このような技術者に必要な、社会で価値あるもののかたちにする「実現力」、社会の変化を見据え、継続的に価値を生み出す「適応力」、社会が必要とする、新しい価値を生み出す「創造力」を育みます。

学士（工学）の学位授与にあたっては、所定の124単位および要件を充足するとともに、「卒業研究（卒業計画）」を必修とします。指導教員のもと、卒業論文あるいは卒業設計を完成させ、成果を公開します。卒業研究（卒業計画）は、「実工学教育」の集大成であり、その修得は「課題発見能力」と「問題解決能力」が十分に養われ、技術者として自信をもって社会へ踏み出すことができる証です。